

■ 日本語教育史参考文献—著書編—

- 1)伊藤金次郎(1948)『台湾欺かざるの記』明倫閣
- 2)小林高四郎(1948)『イスタンブールの夜』一洋社
- 3)小林英夫(1950)『ことばの反省』大洋図書
- 4)増田実(1951)『松本亀次郎傳』城東学園
- 5)佐藤伝(1953)『加奈陀日本語学校教育会史：1923-42年』加奈陀日本語学校教育会整理委員会
- 6)元吉迪夫(1953)『元吉迪夫遺稿 歌集ゴムの実』(私家版)
- 7)塩田紀和(1955)『言語政策史概説』教育図書研究会
- 8)実践社編(1957)『回想の芦田恵之助—その人と業績—』実践社
- 9)呉濁流(1957)『歪められた島』ひろば書房
- 10)宋枝学訳編(1960)『朝鮮教育史』くろしお出版
- 11)塩沢重義(1961)『松下大三郎博士伝』美哉堂書店
- 12)鈴木力二編(1961)『石川倉次先生伝』日本点字七十周年記念事業実行委員会
- 13)旅順中学桜桂会五十年記念誌編集委員編(1963)『旅順のこと母校のこと—旅順中学桜桂会五十年記念誌—』旅順中学桜桂会本部
- 14)国際基督教大学(1962)『日本語教育のために—日本語教育セミナー報告—』国際基督教大学語学科日本語学研究室
- 15)寺川喜四男(1964)『全ヨーロッパにおける日本語教育の歴史と現況(上)』(下巻未刊行?) 法政大学出版局
- 16)寺川喜四男(1964)『全ヨーロッパの日本学総覧』法政大学出版局
- 17)豊田国夫(1964)『民族と言語の問題』錦正社
- 18)新藤東洋男・池上親春(1966)『日本帝国主義の植民地教育と闘った在朝日本人教師の闘いの記録』人権民族問題研究会
- 19)村山有(1966)『ハワイ二世—屈辱から栄光へ—』時事通信社
- 20)小沢有作(1967)『民族教育論』明治図書
- 21)野村秀雄傳記刊行会編(1967)『野村秀雄』野村秀雄傳記刊行会
- 22)元比島日語要員の会編(1967)『さむばぎいた—元比島日語要員の追想集・第1集—』(私家版)
- 23)高見弘人(1968)『カナダの日系人』カナダ研究グループ
- 24)豊田国夫(1968)『言語政策の研究』錦正社
- 25)岩手一関国民教育研究会(1969)『教師の戦争体験の記録』労働旬報社
- 26)牛島秀彦(1969)『ハワイの日系人』三省堂
- 27)海後宗臣・波多野完治・宮原誠一監修・中内敏夫編(1969)『近代日本教育論集 第1巻 ナショナリズムと教育』国土社
- 28)才神時雄(1969)『松山収容所—捕虜と日本人—』中央公論社
- 29)海外技術者研修協会編(1970)『海外技術者研修協会十年史』海外技術者研修協会
- 30)せくばん会編(1970)『せくばん ビルマ日本語学校の記録』修道社
- 31)千葉大学(1970)『千葉大学留学生部—12年の歩み—』千葉大学
- 32)元比島日語要員の会編(1970)『サムパギーター—元日語要員の追想集・第2集—』(私家版)

- 33)山崎朋子(1970)『愛と鮮血ーアジア女性交流史ー』三省堂
- 34)旅順中学桜桂会誌六十周年記念号編集委員会編(1970)『桜桂会誌 六十周年記念号 1969』旅順中学桜桂会本部
- 35)呉林俊(1971)『日本語と朝鮮人』新興書房
- 36)外間守善(1971)『沖縄の言語史』法政大学出版局
- 37)呉濁流(1972)『夜明け前の台湾ー植民地からの告発ー』社会思想社
- 38)小沢義浄編(1972)『ハワイ日本語学校教育史』ハワイ教育会
- 39)金沢謹(1972)『思い出すことなど』国際学友会
- 40)謝銘仁(1972)『台湾社会文化史論』浪速社
- 41)徳田政信・塩澤重義(1972)『松本博士の業績をたたえる』豊岡村役場
- 42)満洲教育専門学校陵南会編(1972)『満洲忘じがたし』満洲教育専門学校陵南会
- 43)森惟彦(1972)『回想の芦田恵之助』実践社
- 44)国民教育研究所編(1973)『全書 国民教育8 激動するアジアと国民教育』明治図書
- 45)棟田博(1974)『桜とアザミー坂東俘虜収容所ー』光人社
- 46)桑野豊助(1974)『台湾大甲の聖人 志賀哲太郎伝』志賀哲太郎先生顕彰会
- 47)遠藤伝(1975)『日本語教師の転戦記ービルマ・ベトナムへー』(私家版)
- 48)水沢市立図書館編集(1975)『斎藤實蔵書目録 第2集』斎藤實記念館
- 49)波多野完治(1975)『波多野完治国語教育著作集』明治図書出版
- 50)坂田新(1976)『台湾の教え子』(私家版)
- 51)中濃教篤(1976)『天皇制国家と植民地伝道』国書刊行会
- 52)福田實(1976)『満洲奉天日本人史ー動乱の大陸に生きた人々ー』謙光社
- 53)小川平四郎(1977)『北京の四年ー回想の中国ー』サイマル出版会
- 54)オーテス・ケーリ編訳(1977)『天皇の孤島ー日本進駐記ー』サイマル出版会
- 55)倉田保雄(1977)『エリセーエフの生涯ー日本学の始祖ー』中央公論社
- 56)見上保(1977)『台湾に於ける六士先生の功績』(私家版)
- 57)蔡茂豊(1977)『中国人に対する日本語教育の史的研究』(私家版)
- 58)米田貞一(1977)『矢野龍溪』(私家版)
- 59)盛毓度(1978)『新・漢民族から大和民族へー春風吹イテ又生ズー』東洋経済新報社
- 60)甲斐正人(1978)『ブラジルー日系人の日本語教育ー』(私家版)
- 61)黒田しのぶ(1978)『半島の少女たち』吉村書房
- 62)仙台における魯迅の記録を調べる会(1978)『仙台における魯迅の記録』平凡社
- 63)田中了・D.ゲンダーヌ(1978)『ゲンダーヌーある北方少数民族のドラマー』徳間書店、
- 64)田丸忠雄(1978)『ハワイに報道の自由はなかったー戦時下の邦字新聞を編集してー』毎日新聞社
- 65)大鐘鍵吉(1979)『南十字星の下にーある日本語教師の手記ー』カナン書房
- 66)国立国語研究所日本語教育センター日本語教育教材開発室(1979)『日本語教育沿革年表 Iー紀元前15世紀〜大正14年ー』国立国語研究所
- 67)桜栄寿三(1979)『蝸牛の鳴く山ー高砂族とともにー』藤森書店
- 68)下伊那教育会(1979)『下伊那教育 西尾実先生追悼特集』第123号 下伊那教育会
- 69)台北師範学校同窓会(1979)『台湾の教育ー日台の睦びー』台北師範学校同窓会

- 70)梶井陟(1980)『朝鮮語を考える』龍溪書舎
- 71)実践女子大学図書館編(1980)『下田歌子関係資料総目録』実践女子学園
- 72)熊澤龍先生の思い出刊行会編(1981)『熊澤龍先生の思い出』謙光社
- 73)桑木務(1981)『大戦下の欧州留學生生活—ある日独交換留學生の回想—』中央公論社
- 74)(財)言語文化研究所(1981)『長沼直兄と日本語教育』開拓社
- 75)正善達三(1981)『アルゼンチンだより—南米日系移民子弟の日本語教育—』絢文社
- 76)新藤東洋男(1981)『在朝日本人教師—反植民地教育運動の記録—』白石書店
- 77)鈴木健一(1981)『旧満洲国における学校教育の展開』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:奨励研究(B)・課題番号56904018) 東京都立教育研究所
- 78)鈴木忍(1981)『日本語教育の現場から』国際学友会
- 79)日本アラブ関係国際共同研究国内委員会編(1981)『日本とアラブ—思い出の記(その2)—』日本アラブ関係国際共同研究国内委員会事務局
- 80)ハーバート・パッシン(1981)『米陸軍日本語学校—日本との出会い—』TBSブリタニカ
- 81)上垣外憲一(1982)『日本留学と革命運動』東京大学出版会
- 82)木村宗男(1982)『日本語教授法—研究と実践—』凡人社
- 83)京城中学卒業五十周年記念誌発行実行委員会(1982)『仁旺ヶ丘—京城中学卒業五十周年記念誌—』同発行実行委員会
- 84)国立国語研究所日本語教育センター日本語教育教材開発室(1982)『日本語教育沿革年表Ⅱ—大正15年～昭和11年—』国立国語研究所
- 85)実践女子学園(1982)『下田歌子先生小伝』実践女子学園
- 86)平野日出雄(1982)『松本亀次郎伝—日中教育のかけ橋—』静岡教育出版社
- 87)深田信四郎(1982)『幻の満洲柏崎村』(私家版)
- 88)早稲田大学語学教育研究所編(1982)『木村宗男先生記念論文集』早稲田大学語学教育研究所
- 89)阿部洋編(1983)『日中教育文化交流と摩擦』第一書房
- 90)石上正夫(1983)『日本人よ忘るなかれ—南洋の民と皇国教育—』大月書店
- 91)小林茂(1983)『航路』(私家版)
- 92)田中彰(1983)『日本人と東南アジア—インドネシアで考える—』小学館
- 93)有福友好(1984)『引揚船』(私家版)
- 94)見上保(1984)『台湾・霧社事件の今昔—悲惨な事件とその裏面史—』(私家版)
- 95)国際協力事業団編(1984)『国際協力事業団10年の歩み』国際協力サービス・センター
- 96)新京第一中学校第一陣会編集委員会編(1984)『わが青春の満洲—新京第一中学校開校50周年史—』新京第一中学校第一陣会
- 97)梶山勝行(1984)『パラオ戦従軍記』新人物往来社
- 98)水田直昌監修(1984)『友邦シリーズ 第27号 渡辺豊日子口述—朝鮮総督府回顧談—』財団法人友邦協会
- 99)新堀道也(編)(1985)『外国大学における日本研究』広島大学大学教育研究センター
- 100)鈴木明(1985)『戦場の神の子たち』中央公論社
- 101)善隣同窓会学園史編集委員会編(1985)『善隣学園史物語』善隣同窓会
- 102)総合研究開発機構(1985)『日本語教育および日本語普及活動の現状と課題』総合研究開発機構

- 103)津野海太郎(1985)『物語・日本人の占領』朝日新聞社
- 104)中野次郎(1985)『ホノム義塾—曾我部四郎伝—』(私家版)
- 105)奉天学院会編集委員会(1985)『学燈は消えず 回想 満洲の大学奉天学院』奉天学院会
- 106)溝口隆造(1985)『ある在満国民学校終戦始末記』(私家版)
- 107)基佐江里編著(1986)『旧台湾出身日本兵秘録 聞け!血涙の叫び』おりじん書房
- 108)楠家重敏(1986)『ネズミはまだ生きている—チェンバレンの伝記—』雄松堂書店
- 109)グッドマン・グラント(1986)『アメリカの日本・元年』大月書店
- 110)国際学友会(1986)『国際学友会 50 年史』国際学友会
- 111)国際基督教大学日本語研究室編(1987)『あすの日本語教育の道を求めて—ICU 日本語教育 30 周年記念—』凡人社
- 112)輿水実迫悼集刊行委員会編(1987)『回想輿水実—その人と学問、業績—』輿水実迫悼集刊行委員会
- 113)高遠町図書館編著(1987)『伊沢修二—その生涯と業績—』高遠町
- 114)旗田巍編(1987)『日本は朝鮮で何を教えたか』あゆみ出版
- 115)原平夫(1987)『伊沢修二・伊沢多喜男』伊那毎日新聞社
- 116)大庭定男(1988)『戦中ロンドン日本語学校』中央公論社
- 117)上沼八郎(1988)『伊沢修二』吉川弘文館
- 118)木村宗男(1988)『教授法入門』国際交流基金日本語国際センター
- 119)中尾吉次(1988)『輝く北極星—北鮮脱出 100 日間の記録—』(私家版)
- 120)藤山檜一(1988)『—青年外交官の太平洋戦争』新潮社
- 121)ブライアン・モーラン(1988)『ロンドン大学日本語学科』情報センター出版局
- 122)石戸谷滋(1989)『フォスコの愛した日本』風媒社
- 123)江藤淳(1989)『閉された言語空間—占領軍の検閲と戦後日本—』文藝春秋社
- 124)木村宗男・阪田雪子・窪田富男・川本喬編(1989)『日本語教授法』桜楓社
- 125)樹神弘(1989)『明治・大正の女傑下田歌子女史』岩村町教育委員会
- 126)(財)言語文化研究所(1989)『開校四十年記念 東京日本語学校の歩み』(財)言語文化研究所
- 127)杉本つとむ(1989)『西洋人の日本語発見—外国人の日本語研究史 1549~1868—』創拓社
- 128)高見澤孟(1989)『新しい外国語教授法と日本語教育』アルク
- 129)竹腰武雄(1989)『苦闘—在米六十年の回顧—』(私家版)
- 130)蔡茂豊(1989)『台湾における日本語教育の史的研究』東呉大学日本文化研究所
- 131)筑波大学国語指導研究会(1989)『国語指導研究—特集 芦田恵之助研究—』第 2 集 筑波大学
- 132)名柄迪・茅野直子・中西家栄子(1989)『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク
- 133)水上七雄(1989)『大興安嶺の落日—南ヶ丘牧場前史—』岡部勇雄
- 134)宮坂勝彦編(1989)『信州人物風土記・近代を拓く 第 15 巻—伊沢修二:見果てぬ夢を—』銀河書房
- 135)阿部洋編(1990)『中国の近代教育と明治日本』福村出版
- 136)宇野隆義(1990)『日語要員回顧』(私家版)
- 137)エスター・L・ヒバド(1990)『ある宣教師っ子の思い出』同志社同窓会・同志社女子大学

- 138)太田雄三(1990)『B. H. チェンバレンー日欧間の往復運動に生きた世界人ー』リブレポート
- 139)海外技術者研修協会編(1990)『海外技術者研修協会三十年史』海外技術者研修協会
- 140)国際交流基金 15 年史編纂委員会(1990)『国際交流基金 15 年のあゆみ』国際交流基金
- 141)新京白菊小学校第 12 期 (終戦時 5 年生) 文集刊行会編(1990)『夕日ー子どもたちの見た最後の満州ー』(私家版)
- 142)関正昭(1990)『日本語教育史』愛知教育大学日本語教育コース
- 143)太原日本中学校同窓会編(1990)『父の伝言ー日中戦争最前線下に生きた中学生たちー』文理閣
- 144)つねあきお〔竹内昭太郎〕(1990)『台湾島は永遠に在るー旧制高校生が見た一九四五年敗戦の台湾ー』堵南舎
- 145)原正敏、槻木瑞生、斉藤利彦(1990)『総力戦下における「満州国」の教育、科学、技術政策の研究』学習院大学東洋文化研究所年 3 月。
- 146)埋橋徳良(1991)『伊沢修二の中国語研究ー日中文化交流の先覚者ー』銀河書房
- 147)木崎良平(1991)『漂流民とロシアー北の黒船に揺れた幕末日本ー』中央公論社
- 148)木村宗男編(1991)『講座日本語と日本語教育第 15 卷 日本語教育の歴史』明治書院
- 149)小出詞子著作集編集委員会編(1991)『日本語教育とともに 小出詞子著作集』凡人社
- 150)坂牧俊子(1991)『カオリの日本留学記』女子パウロ会
- 151)門田修(1991)『南の島にいこうよ』筑摩書房
- 152)田口孝雄(1991)『国際交流と日本語教育ー東京国際学園の 25 年ー』東京国際学園出版部
- 153)巖安生(1991)『日本留学精神史ー近代中国知識人の軌跡ー』岩波書店
- 154)呉火獅(1992)『台湾の獅子』講談社
- 155)柯旗化(1992)『台湾監獄島』イースト・プレス
- 156)倉沢愛子編・解題(1992)『大日本軍政部・爪哇軍政監部編 日本語教科書〔復刻版〕』龍溪書舎
- 157)倉沢愛子(1992)『日本占領下のジャワ農村の変容』草思社
- 158)佐藤秀夫(1992)『戦前・戦時期における日本語教育史に関する調査研究』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:総合研究(A)・課題番号 03301036) 日本大学
- 159)塩沢重義(1992)『国語学史における松下大三郎ー業績と人間像ー』桜楓社
- 160)鄭大均(1992)『日韓のパラレリズム』三交社
- 161)阿部洋(1993)『戦前日本の植民地教育政策に関する総合的研究』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:総合研究(A)・課題番号 04301034) 福岡県立大学
- 162)石川保昌(文)・小柳次一(写真)(1993)『従軍カメラマンの戦争』新潮社
- 163)梅田星也(1993)『日本語先生奮闘記ー中国で思う外国語教育のあり方』大修館書店
- 164)大江志乃夫他編(1993)『岩波講座 近代日本と植民地 7 文化のなかの植民地』岩波書店
- 165)北澤常久(1993)『有言実行ー満蒙開拓少年の自分史ー』自力更生社
- 166)小島勝(1993)『第二次世界大戦前の在外子弟教育論の系譜』龍谷學會
- 167)佐藤秀夫(1993)『第二次大戦前・戦時期の日本語教育関係文献目録』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:総合研究(A)・課題番号 03301036) 日本語教育史研究会
- 168)津川泉(1993)『JODK 消えたコールサイン』白水社

- 169)徳田のぶ(1993)『遙かなる雲』(私家版)
- 170)林啓介(1993)『「第九」の里 ドイツ村』井上書房
- 171)福田敏之(1993)『姿なき尖兵―日中ラジオ戦史―』丸山学芸図書
- 172)「満州国」教育史研究会編(1993)『「満州国」教育史研究：日中共同研究』1号 東海大学出版会
- 173)楊千鶴(1993)『人生のプリズム』そうぶん出版
- 174)井尻俊之・白石孝次(1994)『1934 フットボール元年―父ポール・ラッシュの真実―』ベースボール・マガジン社
- 175)岡村敬二(1994)『遺された蔵書―満鉄図書館・海外日本図書館の歴史―』阿吽社
- 176)川村湊(1994)『海を渡った日本語―植民地の「国語」の時間―』青土社
- 177)神田憲行(1994)『サイゴン日本語学校始末記』潮出版社
- 178)教育ジャーナリズム史研究会(1994)『教育関係雑誌目次集成 第IV期・国家と教育編 第28巻』日本図書センター
- 179)金田一春彦(1994)『わが青春の記』北海道新聞社
- 180)竹沢泰子(1994)『日系アメリカ人のエスニシティ―強制収容と補償運動による変遷―』東京大学出版会
- 181)南条範夫(1994)『妖傑下田歌子』講談社
- 182)二見剛史(1994)『中国人留学生教育と松本亀次郎』(私家版)
- 183)増田信一(1994)『音声言語教育実践史研究』学芸図書
- 184)松尾威哉(1994)『キューバの光と影―ボランティア日本語教師三年の記録―』(私家版)
- 185)「満州国」教育史研究会編(1994)『「満州国」教育史研究：日中共同研究』2号 東海大学出版会
- 186)柳井久雄(1994)『角田柳作先生―アメリカに日本学を育てた上州人―』上毛新聞社
- 187)近代アジア教育史研究会(1995)『近代日本のアジア教育認識・目録編』龍溪書舎
- 188)久保田優子(1995)『植民地朝鮮に対する日本語教育論の形成過程に関する研究』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目：一般研究(C)・課題番号 07610289)九州産業大学
- 189)じっこくおさむ(1995)『ミャンマー物語』三省堂
- 190)武田勝彦(1995)『松本亀次郎の生涯―周恩来・魯迅の師―』早稲田大学出版部
- 191)武田大玄(1995)『仏僧敗戦記―わが回想のビルマ戦線―』光陽出版社
- 192)武田徹(1995)『偽満州国論』河出書房新社
- 193)鄭春河(1995)『終戦五十周年 台湾に生きる大和魂』吉武進
- 194)ディオニシア・チャロンゲン著・樽家圓一訳『父と私―日比混血児の数奇なる生涯―』(私家版)
- 195)西口光一(1995)『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編 解説と演習』バベル・プレス
- 196)日本女子大学日本語教育講座委員会(1995)『日本女子大学日本語教育講座設立経緯と実習報告』日本女子大学
- 197)野村章(1995)『「満洲・満洲国」教育史研究序説(遺稿集)』エムティ出版
- 198)畑幸助(1995)『軍事郵便―ビルマ派遣軍日本語学校教員の便り―』新樹社

- 199)濱谷甚一郎(1995)『台湾島に別れを告げて』(私家版)
- 200)松井嘉和(1995)『タイ王国における日本語教育—その基盤と展開—』錦正社
- 201)森田誠吾(1995)『中島敦』文藝春秋社
- 202)アジア福祉教育財団難民事業本部姫路定住促進センター日本語講師室編(1996)『インドシ
ナ難民・日本語教育 16 年史』アジア福祉教育財団
- 203)イ・ヨンスク(1996)『「国語」という思想—近代日本の言語認識—』岩波書店
- 204)伊藤潔(1996)『李登輝伝』文藝春秋
- 205)柏木隆雄・山口修編(1996)『異文化の交流』大阪大学出版会
- 206)上坂冬子(1996)『伝わらなかった真実—女が振り返る昭和の歴史—』中央公論社
- 207)駒込武(1996)『植民地帝国日本の文化統合』岩波書店
- 208)徐敏民(1996)『戦前中国における日本語教育』エムティ出版
- 209)陳培豊(1996)『植民地台湾の国語教育政策と異民族統治—国体イデオロギーを中心に—』
富士ゼロックス小林節太郎記念基金
- 210)天理教香港出張所・香港天理日本語学校編纂(1996)『開校 10 周年記念 香港天理日本語学校
年譜』天理教香港出張所・香港天理日本語学校
- 211)豊田豊子(1996)『伝統的日本語教授法—長沼直兄と鈴木忍の場合—』(財)言語文化研究所
- 212)長沼守人(1995-1996)『日本語教育の指導理論と実践活動の史的研究—大正・昭和期から現
代に至る—』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:一般研究(C)・課題番
号 07680316) (財)言語文化研究所
- 213)中村健之介(1996)『宣教師ニコライと明治日本』岩波書店
- 214)原田一美(1996)『虎先生がやってきた』PHP 研究所
- 215)藤原聡・篠原啓一・西出勇志(1996)『アジア戦時留学生—「トージョー」が招いた若者た
ちの半世紀—』共同通信社
- 216)マーク・ピーティアー(1996)『20 世紀の日本 4 植民地—帝国 50 年の興亡—』読売新聞社
- 217)柳本通彦(1996)『台湾・霧社に生きる』現代書館
- 218)秋田県教育庁生涯学習振興課(1997)『日本語教育講座のあゆみ』秋田県教育委員会
- 219)稲葉継雄(1997)『旧韓末「日語学校」の研究』九州大学出版会
- 220)江上芳郎(1997)『南方特別留学生招聘事業の研究』龍溪書舎
- 221)大田周二(1997)『パゴダの国のサムライたち—「ビルマ国軍士官学校」出身者が築く日本
とミャンマーの絆—』同朋社
- 222)沖田行司(1997)『ハワイ日系移民の教育史:日米文化、その出会いと相剋』ミネルヴァ書
房
- 223)記念文集編集委員会編(1997)『ふるさと旅順—母校創立九十周年記念文集—』旅順第二尋
常高等小学校・旅順第二尋常小学校・旅順師範学校附属小学校・旅順師範学校附属国民学校
同窓会
- 224)倉沢愛子(1997)『南方特別留学生が見た戦時下の日本人』草思社
- 225)佐藤益躬(1997)『ふるさと旅順 別冊「旅順物語」』旅順第二尋常高等小学校・旅順第二尋
常小学校・旅順師範学校附属小学校・旅順師範学校附属国民学校同窓会

- 226)石剛(1997)『戦前及び戦中期の台湾・朝鮮・満州国・大陸占領地における日本語普及と言語政策』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 07601072) 徳島大学
- 227)じっこくおさむ〔草薙正典〕(1997)『しけんきゅう 130号 じっこくおさむ追悼特集:ピルマ戦争と日本語など』しけんきゅう社
- 228)関正昭(1997)『日本語教育史研究序説』スリーエーネットワーク
- 229)関正昭・平高史也編(1997)『日本語教育史』アルク
- 230)田中道代(1997)『ニューヨークの台湾人―「元大日本帝国臣民」たちの軌跡―』芙蓉書房出版
- 231)中山昭三(1997)『先生、いってらっしゃい!―南米の日本人学校・日本語学校の八年―』(私家版)
- 232)日本国際教育協会(1997)『日本国際教育協会40年史』全2巻 日本国際教育協会
- 233)林景明『日本統治下台湾の「皇民化」教育―私は十五歳で「学徒兵」となった―』高文研
- 234)丸山静雄(1997)『日本のアジア支配を考える』新日本出版社
- 235)明治書院企画編集部編(1997)『日本語学者列伝』明治書院
- 236)安田敏朗(1997)『帝国日本の言語編制』世織書房
- 237)岡村敬二(1998)『満鉄大連図書館蔵書目録(全20巻)』ゆまに書房
- 238)沖田行司編(1998)『ハワイ日系社会の文化とその変容』ナカニシヤ出版
- 239)楠家重敏(1998)『イギリス人ジャパノロジストの肖像―サトウ、アストン、チェンバレン―』近代文芸社
- 240)(財)言語文化研究所附属東京日本語学校(1998)『ナガスマスクール開校50周年記念講演とシンポジウム―日本語教育の源流・現在・近未来― 講演集』(財)言語文化研究所
- 241)(財)言語文化研究所附属東京日本語学校(1998)『ナガスマスクール開校50周年記念講演とシンポジウム―日本語教育の源流・現在・近未来― 予稿集』(財)言語文化研究所
- 242)拓殖大学言語文化研究所編(1998)『拓殖大学公開講座日本語教師養成講座「教育実習」10年の報告』拓殖大学言語文化研究所
- 243)長志珠絵(1998)『近代日本と国語ナショナリズム』吉川弘文館
- 244)日本語教育学会(1998)『日本語教育学会35年のあゆみ』日本語教育学会
- 245)安田敏朗(1998)『植民地の中の「国語学」』三元社
- 246)山下暁美(1998)『解説 日本語教育史年表』国書刊行会
- 247)稲葉継雄(1999)『植民地朝鮮における日本人教員の人事・教育活動に関する実証的研究』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:一般研究(C)・課題番号 10610265) 九州大学
- 248)呉月娥『ある台湾人女性の自分史』芙蓉書房出版
- 249)埋橋徳良(1999)『日中言語文化交流の先駆者―太宰春台、阪本天山、伊沢修二の華音研究―』白帝社
- 250)北川勝彦他編(1999)『帝国意識の解剖学』世界思想社
- 251)国際協力事業団(1999)『国際協力事業団25年史:人造り国造り心のふれあい』国際協力事業団

- 252)在外子弟教育研究会(1999)『在外子弟教育と異文化間教育－龍谷大学人間・科学・宗教研究助成(平成8年度)研究成果報告書－』在外子弟教育研究会
- 253)真田信治(1999)『よくわかる日本語史』アルク
- 254)芝崎厚士(1999)『近代日本と国際文化交流－国際文化振興会の創設と展開－』有信堂
- 255)柴崎信三(1999)『魯迅の日本 漱石のイギリス－「留学の世紀」をきたた人びと－』日本経済新聞社
- 256)鈴木政平(1999)『日本占領下バリ島からの報告－東南アジアでの教育政策－』草思社
- 257)張有忠(1999)『台湾人の台湾』第一プリント出版事業部
- 258)馬場良二(1999)『ジョアン・ロドリゲスの「エレガント」－イエズス会士の日本語教育における日本語観－』風間書房
- 259)日尾康子編(1999)『にほんご 日本語教員養成課程開設十周年記念』四国学院大学日本語教員養成課程
- 260)古川ちかし・春原憲一郎・富谷玲子(1999)『増補改訂版 日本語教育－激動の10年と今後の展望－』アルク
- 261)松井嘉和・北村武士・ウォーラウト・チラソンバット(1999)『タイにおける日本語教育－その基盤と生成と発展－』錦正社
- 262)松尾尊兌監修・野田秋生著(1999)『矢野龍溪』大分県教育委員会
- 263)安田敏朗(1999)『近代日本言語史再考－帝国化する「日本語」と「言語問題」－』三元社
- 264)矢吹晋編・鈴木博一訳(1999)『周恩来「十九歳の東京日記」』小学館
- 265)和田彰子〔許秋槎〕(1999)『神さまの庭で』相思樹
- 266)アジア福祉教育財団難民事業本部編(2000)『インドシナ難民に対する日本語教育20年の軌跡』アジア福祉教育財団
- 267)石橋隆(2000)『旧植民地の落し子 台湾「高砂義勇兵」は今』隆文社
- 268)伊藤勲(2000)『留学生教育と国際学友会における日本語教育並びに進学指導』近代文芸社
- 269)上田崇仁(2000)『植民地朝鮮における言語政策と「国語」普及に関する研究』関西学院大学出版会
- 270)江副学園(2000)『日本語教育25年の軌跡：学校法人江副学園設立記念』凡人社
- 271)川崎賢一(1998-2000)『国際文化振興会から国際交流基金へ；Cultural Globalization and Cultural Industries；文化的グローバリゼーションと情報化政策：グローバリゼーションと文化交流・文化産業に関する実証的・社会学的研究』全3冊 文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目：基盤研究(B)・課題番号10410055) 駒沢大学
- 272)川村湊(2000)『作文の中の大日本帝国』岩波書店
- 273)金昌國(2000)『韓国人が知日家になるとき』平凡社
- 274)木村宗男先生米寿記念論集刊行委員会(2000)『日本語教育史論考－木村宗男先生米寿記念論集－』凡人社
- 275)光華女子大学文学部教養・教職等研究室編(2000)『日本語を考える』ナカニシヤ出版
- 276)小森陽一(2000)『日本語の近代』岩波書店
- 277)鈴木健一(2000)『満洲教育史論集：古希記念』山崎印刷出版部
- 278)竹中憲一(2000)『「満州」における教育の基礎的研究(全6巻)』柏書房
- 279)多仁安代(2000)『大東亜共栄圏と日本語』勁草書房

- 280)周一川(2000)『中国人女性の日本留学史研究』国書刊行会
- 281)陳恵美(2000)『台湾人従軍看護婦追想記―すみれの花が咲いた頃―』展転社
- 282)蔡焜燦(2000)『台湾人と日本精神―日本人よ胸を張りなさい―』日本教文社
- 283)槻木瑞生(2000)『「大東亜戦争」期における日本植民地・占領地教育の総合的研究』文部省
科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(B)・課題番号 10410075) 同朋
大学
- 284)デイ多佳子(2000)『日本の兵隊を撃つことはできない―日系人強制収容の裏面史―』芙蓉
書房出版
- 285)東京YWCA 中国帰国者日本語教室委員会編(2000)『中国帰国者日本語教室 20年のあゆみ』
東京キリスト教女子青年会
- 286)中川英佐著・物部ひろみ他訳(2000)『土佐からハワイへ―奥村多喜衛の軌跡―』高知新聞
企業
- 287)長沼守人(2000)『日米両国の日本語教育理論と実践活動の展開と連関―戦前・戦中期より
現代に至る―』 文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)(2)・課
題番号 09680306) (財)言語文化研究所第一研究部
- 288)蜂矢宣朗(2000)『続続湾生の記』(私家版)
- 289)浜崎紘一(2000)『俺は日本兵―台湾人・簡茂松の「祖国」―』新潮社
- 290)細川周平(2000)『日系ブラジル移民の「国語」イデオロギーの変遷―教育の領域において
―』松下国際財団研究助成報告書(1998~2000年度・課題番号 00380010) 東京工業大
学
- 291)本名信行・岡本佐智子編(2000)『アジアにおける日本語教育』三修社
- 292)安田敏朗(2000)『「言語」の構築―小倉進平と植民地朝鮮―』三元社
- 293)山口洋兒編(2000)『日本統治下ミクロネシア文献目録』風響社
- 294)渡部宗助・竹中憲一編(2000)『教育における民族的相克―日本植民地教育史論 I―』東方
書店
- 295)王智新編(2000)『日本の植民地教育・中国からの視点』社会評論社
- 296)王智新他編(2000)『批判 植民地教育史認識』社会評論社
- 297)田中寛(2000)『日本語の視界』(私家版)
- 298)赤澤史朗他編(2001)『年報日本現代史 第7号 戦時下の宣伝と文化』現代史出版
- 299)宇野重昭編(2001)『深まる侵略 屈折する抵抗―一九三〇年―四〇年代の日・中のはざま
―』研文出版
- 300)江原裕美(1998-2001)『ブラジル日系移民の日本語教育に関する実証的歴史的研究』 文部
省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 10610276) 帝京
大学
- 301)川瀬生郎(2001)『日本語教育学序説』拓殖大学言語文化研究所
- 302)国際協力事業団青年海外協力隊事務局編(2001)『青年海外協力隊 20世紀の軌跡:
1965-2000』国際協力事業団青年海外協力隊事務局
- 303)篠原正巳(2001)『日台を結ぶ師弟の絆 芝山巖事件の真相』和鳴会
- 304)ダニエル・ロング・中井精一・宮治弘明編(2001)『応用社会言語学を学ぶ人のために』世
界思想社

- 305)陳培豊(2001)『「同化」の同床異夢—日本統治下台湾の国語教育史再考—』三元社
- 306)黄長燁(2001)『金正日への宣戦布告—黄長燁回顧録—』文藝春秋
- 307)松岡陽子マックレイン(2001)『英語・日本語コトバくらべ—日本語教授 30 年の異文化摩擦—』中央公論新社
- 308)文部科学省高等教育局学生課(2001)『大学と学生 <特集>留学生受入れ制度 100 年記念』444 号 文部科学省
- 309)文部科学省(2001)『文部科学時報 <特集>留学生受入れ制度 100 年記念』第 1507 号 ぎょうせい
- 310)山田繁伸(2001)『矢野龍溪—近代化につくしたマルチ人間—』大分県教育委員会
- 311)エディ・ヘルマワン(2002)『我が道—50 余年の日本語教育を中心に—』(私家版)
- 312)大里浩秋・孫安石編(2002)『中国人日本留学史研究の現段階』御茶の水書房
- 313)上遠野寛子(2002)『東南アジアの弟たち—素顔の南方特別留学生—改訂版』暁印書館
- 314)河田宏(2002)『満洲建国大学物語—時代を引き受けようとした若者たち—』原書房
- 315)川村湊編(2002)『中島敦 父から子への南洋便り』集英社
- 316)高坂知武(2002)『思い出すままに』(私家版)
- 317)酒井恵美子(2002)『台湾総督府編纂国語読本の国語学的研究』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 12610430) 中京大学
- 318)阪口直樹(2002)『戦前同志社の台湾留学生』白帝社
- 319)山東功(2002)『明治前期日本文典の研究』和泉書院
- 320)椎名和男教授古希記念論文集刊行委員会『国際文化交流と日本語教育—きのう・きょう・あす—』凡人社
- 321)竹中憲一(2002)『「満州」植民地日本語教科書集成(全 7 巻)』緑蔭書房
- 322)辻本雅史・沖田行司編(2002)『新体系日本史 16 教育社会史』山川出版社
- 323)古川昭(2002)『旧韓末近代学校の形成』ふるかわ海事事務所
- 324)松尾茂(2002)『私が朝鮮半島でしたこと—架橋・農地改良・道路建設・鉄道工事 1928 年~1946 年—』草思社
- 325)松永典子(2002)『日本軍政下のマラヤにおける日本語教育』風間書房
- 326)宮脇弘幸(2002)『日本語教科書—日本の英領マラヤ・シンガポール占領期(1941-45)—』龍溪書舎
- 327)村上政彦(2002)『「君が代少年」を探して—台湾人と日本語教育—』平凡社
- 328)百瀬侑子(2002)『ジョクジャ雑記』つくばね舎
- 329)吉岡数子(2002)『「在満少国民」の 20 世紀—平和と人権の語り部として—』解放出版社
- 330)李紅衛(2002)『清水安三と北京崇貞学園—近代日中教育文化交流史の視点から—』富士ゼロックス小林節太郎記念基金
- 331)林彦卿(2002)『非情山地』(私家版)
- 332)阿満利磨(2003)『社会を作る仏教—エンゲイジド・ブディズム—』人文書院
- 333)泉史生(2003)『2000 年度財団法人交流協会日台交流センター歴史研究者交流事業報告書 台湾における近代化と植民地政策としての日本語教育—公学校卒業生に対する聞き取り及び公学校資料現存調査—』(財)交流協会

- 334)川路賢一郎(2003)『シエラマドレの熱風一日・墨を架けた照井亮次郎の生涯ー』パコスジャパン
- 335)河路由佳・淵野雄二郎・野本京子(2003)『戦時体制下の農業教育と中国人留学生ー1935～1944年の東京高等農林学校ー』農林統計協会
- 336)神戸大学留学生センター10周年記念誌編集委員会編(2003)『知への飛翔ー神戸大学留学生センター10周年記念誌ー』神戸大学留学生センター
- 337)小島勝(2003)『在外子弟教育の研究』玉川大学出版部
- 338)石剛(2003)『植民地支配と日本語ー台湾、満洲国、大陸占領地における言語政策ー』三元社
- 339)(社)日本語教育学会(2003)『戦前戦中の日本語教育教材レコード復刻版』(社)日本語教育学会
- 340)鍾少華(2003)『あのころの日本ー若き日の留学を語るー』日本僑報社
- 341)鈴木義里(2003)『つくられた日本語、言語という虚構ー「国語」教育のしてきたことー』右文書院
- 342)竹中憲一(2003)『旧「満州」における植民地教育体験者の調査』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号14510312) 早稲田大学
- 343)竹中憲一(2003)『大連 アカシアの学窓ー証言 植民地教育に抗してー』明石書店
- 344)望月通子(2003)『日本語教育学の新視座ー日本語教育・国語教育・英語教育のインターフェイスー』関西大学出版部
- 345)百瀬侑子(2003)『知っておきたい戦争の歴史ー日本占領下インドネシアの教育ー』つくばね社
- 346)安田敏朗(2003)『脱「日本語」への視座』三元社
- 347)山崎朋子(2003)『朝陽門外の虹ー崇貞女学校の人びとー』岩波書店
- 348)山城幸松・金容権(2003)『日本「帝国」の成立ー琉球・朝鮮・満州と日本の近代ー』日本評論社
- 349)阿部洋(2004)『「対支文化事業」の研究』汲古書院
- 350)岡崎郁子(2004)『黄靈芝物語ーある日文台湾作家の軌跡ー』研文出版
- 351)小笠原拓(2004)『近代日本における「国語科」の成立過程ー「国語科」という枠組みの発見とその意義ー』学文社
- 352)岡村敬二(2004)『「満洲国」資料集積機関概観』不二出版
- 353)折田悦郎(2004)『九州帝国大学における留学生に関する基礎的研究』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)(2)・課題番号14510366) 九州大学 大学史料室
- 354)近代アジア教育史研究会(2004)『近代日本のアジア教育認識・資料編 台湾の部ー明治後期教育雑誌所収中国・韓国・台湾関係記事 所収記事目録・解題ー』龍溪書舎
- 355)久保田優子(2004)『植民地朝鮮における日本語教育の論理に関する研究』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号14510320) 九州産業大学

- 356)熊谷明泰(2004)『植民地下朝鮮に於ける徴兵制実施計画に伴う「国語常用・国語全解」運動の展開様相』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 15520343) 関西大学
- 357)熊谷明泰編(2004)『朝鮮総督府の「国語」政策資料』関西大学出版部
- 358)桑原哲朗(2004)『芦田恵之助の綴り方教師修養論に関する研究』溪水社
- 359)島田法子(2004)『戦争と移民の社会史—ハワイ日系アメリカ人の太平洋戦争—』現代史料出版
- 360)嶋津拓(2004)『オーストラリアの日本語教育と日本の対オーストラリア日本語普及』ひつじ書房
- 361)竹中憲一(2004)『「満州」における中国語教育』柏書房
- 362)田中寛(2004)『「負」の遺産を越えて—「七三一部隊」、毒ガス戦、「満洲国」—』国際語学社
- 363)樽本照雄(2004)『初期商務印書館研究 増補版』清末小説研究会
- 364)斉紅深編・竹中憲一訳(2004)『「満洲」オーラルヒストリー—<奴隷化教育>に抗して—』皓星社
- 365)蔡敏三(2004)『シリーズ日本人の誇り 2 帰らざる日本人』桜の花出版
- 366)趙軍編(2004)『国府台経済研究 第15巻2号 社会転換期における日中文化交流特集号』千葉商科大学経済研究所
- 367)塚瀬進(2004)『満州の日本人』吉川弘文館
- 368)松田吉郎(2004)『台湾原住民と日本語教育』晃洋書房
- 369)松原孝俊(2004)『中国東北部における日本語資料 Network 化に関する基礎的研究』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:一般研究(B)(1)・課題番号 14401031)九州大学韓国研究センター
- 370)松原孝俊(2004)『ドイツ語圏所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究—旧東ドイツとポーランド西部旧ドイツ領を中心として—』サントリー文化財団研究助成研究成果報告書
- 371)水野直樹編(2004)『生活の中の植民地主義』人文書院
- 372)三ツ井崇(2004)『植民地下朝鮮における言語支配の構造—朝鮮語規範化問題を中心に—』関西学院大学出版会
- 373)安田敏朗(2004)『日本語学は科学か—佐久間鼎とその時代—』三元社
- 374)山路勝彦(2004)『台湾の植民地統治—<無主の野蛮人>という言説の展開—』日本図書センター
- 375)吉岡英幸(2004)『第二次大戦期までの日本語教育関係文献目録』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 13680361) 早稲田大学
- 376)赤城村教育委員会(2005)『角田柳作』赤城村教育委員会
- 377)秋山勇造(2005)『新しい日本のかたち—明治開明の諸相—』御茶ノ水書房
- 378)稲葉継雄(2005)『旧韓国~朝鮮の「内地人」教育』九州大学出版会
- 379)柯徳三(2005)『母国は日本、祖国は台湾—或る日本語族台湾人の告白—』星雲社
- 380)加藤一夫・河田いこひ・東條文規(2005)『日本の植民地図書館—アジアにおける日本近代図書館史—』社会評論社

- 381)楠家重敏(2005)『W・G・アストンー日本と朝鮮を結ぶ学者外交官ー』雄松堂書店
- 382)久保田優子(2005)『植民地朝鮮の日本語教育ー日本語による「同化」教育の成立過程ー』九州大学出版会
- 383)ケネス・T・オカノ, 片山久志(2005)『あるハワイ移民の遺著ーハワイ・ヒロシマ・ナガサキを結ぶ移民1世と3世の物語ー』川辺書林
- 384)真田信治・原土洋(2005)『NAFL 日本語教師養成プログラム 12 日本語史／日本語教育史 [改訂版]』アルク
- 385)石剛(2005)『日本の植民地言語政策研究』明石書店
- 386)許世楷・盧千恵(2005)『台湾は台湾人の国』はまの出版
- 387)植民地文化研究会編(2005)『《満洲国》文化細目』不二出版
- 388)ダニエル・ロング、宋明淑、米田早希、丸島歩、武捨君彦(2005)『小笠原における日本語習得の歴史ーNavy 世代の欧米系島民の言語生活調査からー』東京都立大学小笠原研究委員会
- 389)東海大学留学生教育センター編(2005)『日本語教育法概論』東海大学出版会
- 390)朴宣美著 (2005)『朝鮮女性の知の回遊ー植民地文化支配と日本留学ー』山川出版社
- 391)長谷川恒雄(2005)『第2次大戦期興亜院の日本語教育に関する調査研究』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(B)(1)・課題番号14380120)慶應義塾大学
- 392)平野健一郎監修(2005)『戦後日本の国際文化交流』勁草書房
- 393)前田均編(2005)『日本語教科書目録集成』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(課題番号1438120)天理大学
- 394)松岡弘・五味政信編(2005)『開かれた日本語教育の扉』スリーエーネットワーク
- 395)水島裕雅編(2005)『講座・日本語教育学第1巻 文化の理解と言語の教育』スリーエーネットワーク
- 396)山根幸夫(2005)『東方文化事業の歴史ー昭和前期における日中文化交流ー』汲古書院
- 397)楊啓壽(2005)『台湾基督長老教会の過去・現在・未来ー原住民宣教と民主化運動ー』日本基督教団北海教区アイヌ民族情報センター
- 398)劉建雲(2005)『中国人の日本語学習史ー清末の東文学堂ー』学術出版会
- 399)家崎晴夫(2005)『下田歌子』岐阜県
- 400)五十嵐真子編(2006)『戦後台湾における<日本>ー植民地経験の連続・変貌・利用ー』風響社
- 401)井谷泰彦(2006)『沖縄の方言札』ボーダーインク
- 402)今村与志雄編(2006)『橋川時雄の詩文と追想』汲古書院
- 403)遠藤織枝編(2006)『日本語教育を学ぶーその歴史から現場までー』三修社
- 404)河路由佳(2006)『非漢字圏留学生のための日本語学校の誕生ー戦時体制下の国際学友会における日本語教育の展開ー』港の人
- 405)上村忠昌(2006)『漂流青年ゴンザの著作と言語に関する総合的研究』(私家版)
- 406)貴志俊彦・川島真・孫安石編(2006)『戦争・ラジオ・記憶』勉誠出版
- 407)木村真治(2006)『私とオーストラリアー日本語教師として過ごした10年ー』文芸社
- 408)近藤健一郎(2006)『近代沖縄における教育と国民統合』北海道大学出版会

- 409)佐野通夫(2006)『日本植民地教育の展開と朝鮮民衆の対応』社会評論社
- 410)蕭翔文(2006)『三つの祖国』(私家版)
- 411)武井一(2006)『皇室特派留学生—大韓帝国からの50人—』白帝社
- 412)田中寛(2006)『多言語・多文化社会を生きる—日本語学と日本語教育学のために—』大東文化大学外国語学部日本語学科
- 413)多仁安代(2006)『日本語教育と近代日本』岩田書院
- 414)鄭大均(2006)『在日の耐えられない軽さ』中央公論新社
- 415)ドナルド・キーン編・松宮史朗訳(2006)『昨日の戦地から—米軍日本語将校が見た終戦直後のアジア—』中央公論新社
- 416)西牟田靖(2006)『写真で読む 僕が見た「大日本帝国」』情報センター出版局
- 417)日本対外文化協会日口歴史を記録する会編(2006)『日露オーラルヒストリー—はざまで生きた証言—』彩流社
- 418)野村敏夫(2006)『国語政策の戦後史』大修館書店
- 419)ヒルディ・カン著・桑畑優香訳(2006)『黒い傘の下で—日本植民地に生きた韓国人の声—』ブルース・インターアクションズ
- 420)福原登喜(2006)『もみじ手—二代真柱様と私—』(私家版)
- 421)藤森智子(2006)『植民地台湾における社会教育・初等教育の国語教科書研究—「内地」「朝鮮」との比較考察—』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:若手研究(B)・課題番号 16720123) 田園調布学園大学
- 422)文化庁(2006)『国語施策百年史』ぎょうせい
- 423)文藝春秋社編(2006)『文藝春秋特別版 私が愛する日本語』第84巻第10号 文藝春秋社
- 424)松永典子(2006)『多文化・多様化状況における日本語教育理念及び方法論の探求—南方占領地の事例より—』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 15520344) 九州大学
- 425)松原孝俊(2006)『ヨーロッパ所在日本語関係資料のデータベース化に関する基礎的調査研究』サントリー文化財団研究助成研究成果報告書
- 426)水谷尚子(2006)『「反日」以前—中国対日工作者たちの回想—』文藝春秋社
- 427)村井万里子(2006)『国語・日本語教育基礎論研究』溪水社
- 428)安田敏朗(2006)『「国語」の近代史—帝国日本と国語学者たち—』中央公論新社
- 429)安田敏朗(2006)『統合原理としての「国語」』三元社
- 430)楊應吟(2006)『素晴らしかった日本の先生とその教育』
- 431)阮美姝(2006)『台湾二二八の真実—消えた父を探して—』まどか出版
- 432)劉鴻運著・田所泉訳(2006)『アカシアの町に生まれて—劉鴻運自伝—』風濤社
- 433)麗澤大学別科日本語研修課程編(2006)『別科日本語研修課程 30年の歩み』麗澤大学
- 434)早稲田大学大学院日本語教育研究科編(2006)『早稲田日本語教育の歴史と展望』アルク
- 435)安彦良和(2007)『愛知大学東亜同文書院ブックレット 2 漫画で描こうとした大陸と日本青年』株式会社あるむ
- 436)浦田義和(2007)『占領と文学』法政大学出版局
- 437)大内裕和編著(2007)『愛国心と教育』日本図書センター
- 438)櫻坂英子編(2007)『韓国における日本語教育』三元社

- 439)下村作次郎(2007)『「呉鳳」関係資料集 一～二』緑陰書房
- 440)神谷忠孝・木村一信編(2007)『<外地>日本語文学論』世界思想社
- 441)工藤真由美編(2007)『言語の接触と混交—ブラジル日系人(沖縄系)言語調査報告—』大阪
大学大学院文学研究科・人間科学研究科・言語文化研究科
- 442)倉田保雄(2007)『夏目漱石とジャパノロジー伝説—「日本学の父」は門下のロシア人・エ
リセーエフ—』近代文芸社
- 443)佐々木泰子編(2007)『ベーシック日本語教育』ひつじ書房
- 444)竹中憲一(2007)『大連歴史散歩』皓星社
- 445)谷口好三(2007)『夜明けの台北駅』近代文芸社
- 446)玉川大学教育博物館編(2007)『玉川大学教育博物館外地教科書目録』文部科学省科学研究
費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(B)・課題番号 18330171) 玉川大学
- 447)玉川大学教育博物館編(2007)『玉川大学教育博物館所蔵外地教育史料目録』文部科学省科
学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(B)・課題番号 18330171) 玉川大
学
- 448)原田敬一(2007)『シリーズ日本近現代史③ 日清・日露戦争』岩波書店
- 449)平野久美子(2007)『トオサンの桜—散りゆく台湾の中の日本—』小学館
- 450)フェイ・阮・クリーマン(2007)『大日本帝国のクレオール—植民地期台湾の日本語文学—』
慶應義塾大学出版会
- 451)古川ちかし・林珠雪・川口隆行(2007)『台湾・韓国・沖縄で日本語は何をしたのか—言語
支配のもたらすもの—』三元社
- 452)安田敏朗(2007)『国語審議会—迷走の60年—』講談社
- 453)山崎厚子(2007)『秋瑾 火焰の女』河出書房新社
- 454)山下暁美(2007)『海外の日本語の新しい言語秩序—日系ブラジル・日系アメリカ人社会に
おける日本語による敬意表現—』三元社
- 455)李徳明原著・遠藤織枝編著(2007)『中国人学生の綴った戦時中日本語日記』ひつじ書房
- 456)劉徳有(2007)『わが人生の日本語』日本僑報社
- 457)若林亜紀(2007)『サラダボウル化した日本—外国人「依存」社会の現場を歩く—』光文社
- 458)太田孝子(2008)『海峡を越えて—京畿高等女学校の思い出—』春風社
- 459)岡田英夫(2008)『日本語教育能力検定試験に合格するための世界と日本』アルク
- 460)奥中康人(2008)『国歌と音楽—伊澤修二がめざした日本近代—』春秋社
- 461)掛川市教育委員会生涯教育課(2007)『松本亀次郎』掛川市役所
- 462)北村嘉恵(2008)『日本植民地下における台湾先住民教育史』北海道大学出版会
- 463)金昌國(2008)『ボクらの京城師範附属第二国民学校—ある知日家の回想—』朝日新聞社
- 464)近藤健一郎編(2008)『沖縄・問いを立てる2 方言札—ことばと身体—』社会評論社
- 465)山東功(2008)『唱歌と国語—明治近代化の装置—』講談社
- 466)嶋津拓(2008)『オーストラリアにおける日本語教育の位置』凡人社
- 467)嶋津拓(2008)『海外の「日本語学習熱」と日本』三元社
- 468)同志社大学国際センター(2008)『同志社・ハワイ・日本—知られざる日米交流史—』同志
社大学国際センター
- 469)戸ノ下達也・長木誠司編著(2008)『総力戦と音楽文化—音と声の戦争—』青弓社

- 470)天理大学おやさと研究所(2008)『戦前・戦中の中国伝道(2) 華北における天理教の活動』天理大学おやさと研究所
- 471)中田敏夫(2008)『台湾総督府学務部及び警務関係者編纂初期日本語史料の基礎的研究』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 17520297) 愛知教育大学
- 472)日本語学科 20 周年記念冊子編集委員会(2008)『姫路獨協大学日本語教育の歩みー日本語学科 20 周年を記念してー』姫路獨協大学外国語学部
- 473)林壮一(2008)『アメリカ下層教育現場』光文社
- 474)細川周平(2008)『遠きにありてつくるものー日系ブラジル人の思い・ことば・芸能ー』みすず書房
- 475)本田弘之(2008)『東アジア地域における 1945 年以降の日本語教育の自律と変容に関する調査研究』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号 17520353) 杏林大学
- 476)松永典子(2008)『「総力戦」下の人材養成と日本語教育』花書院
- 477)松永正義(2008)『台湾を考えるむずかしさ』研文出版
- 478)村上呂里(2008)『日本・ベトナム比較言語教育史ー沖繩から多言語社会をのぞむー』明石書店
- 479)安田敏朗(2008)『金田一京助と日本語の近代』平凡社
- 480)吉岡英幸編(2008)『徹底ガイド日本語教材』凡人社
- 481)吉岡英幸(2008)『第二次大戦期以降の日本語教育教材目録』文部省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:一般研究(C)・課題番号 17520356) 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- 482)蘭信三(2009)『中国残留日本人という経験ー「満洲」と日本を問い続けてー』勉誠出版
- 483)イ・ヨンスク(2009)『「ことば」という幻影ー近代日本の言語イデオロギーー』明石書店
- 484)磯田一雄(2009)『植民地期東アジアの近代化と教育の展開ー1930 年代~1950 年代ー』日本学術振興会平成 18 年度~平成 20 年度科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(B)・課題番号 18330174) 大阪経済法科大学
- 485)内田慶市・沈国威編著(2009)『文化交渉と言語接触研究・資料叢刊 1 言語接触とピジンー19 世紀の東アジアー』白帝社
- 486)エドワード・バンド著、松谷好明・松谷邦英訳(2009)『トマス・バークレーー台湾に生涯をささげた宣教師ー』教文館
- 487)片倉佳史(2009)『台湾に生きている「日本」』祥文社
- 488)金井三郎(2009)『生きる 前編 人生二十五・戦時中ノ記』ほおずき書房
- 489)木村一信・崔在喆編(2009)『韓流百年の日本語文学』人文書院
- 490)楠家重敏(2009)『アーネスト・サトウの読書ノートーイギリス外交官の見た明治維新の舞台裏ー』雄松堂出版
- 491)工藤真由美・森幸一・山東功・李吉鎔・中東靖恵(2009)『ブラジル日系・沖繩系移民社会における言語接触』ひつじ書房
- 492)真田信治(2009)『越境した日本語ー話者の「語り」からー』和泉書院

- 493)許寿童(2009)『近代中国東北教育の研究—間島における朝鮮人中等教育と反日運動—』明石書店
- 494)鈴木紳郎編(2009)『やさしい日本語指導3 日本語教育の歴史と現状』凡人社
- 495)天理大学おやさと研究所(2009)『戦前・戦中の中国伝道3 青島、天津、北京、保定、杭州』天理大学
- 496)東京日本語学校開校60周年記念誌編集委員会編(2009)『東京日本語学校開校60周年記念誌』(財)言語文化研究所附属東京日本語学校
- 497)柴田哲雄(2009)『協力・抵抗・沈黙—汪精衛南京政府のイデオロギーに対する比較史的アプローチ—』成文堂
- 498)島内景二(2009)『中島敦「山月記伝説」の真実』文藝春秋社
- 499)原康彦(2009)『文化大革命に消えた大連日語専科学校物語—40年ぶりの大連訪問記—』岩成書房
- 500)松永典子編(2009)『多文化・多様化に即した日本語教育方法論の探究—戦時下の日本語教師養成を手掛りに—』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号18520410)九州大学大学院比較社会文化研究院
- 501)森下正夫(2009)『伊澤修二—明治の至宝—』伊那市教育委員会
- 502)山田邦紀・坂本俊夫(2009)『明治の快男児トルコへ跳ぶ—山田寅次郎伝—』現代書館
- 503)閻立(2009)『清末中国の対日政策と日本語認識—朝貢と条約のはざままで—』東方書店
- 504)李紅衛(2009)『清水安三と北京崇貞学園』不二出版
- 505)林初梅(2009)『「郷土」としての台湾—郷土教育の展開にみるアイデンティティの変容—』東信堂
- 506)一戸彰晃(2010)『曹洞宗の戦争—海外布教師中泉智法の雑誌寄稿を中心に—』皓星社
- 507)上田崇仁・上水流久彦・中村八重(2010)『交渉する東アジア 近代から現代まで—崔吉城先生古稀記念論文集—』風響社
- 508)遠藤織枝・小林美恵子・桜井隆(2010)『世界をつなぐことば—ことばとジェンダー／日本語教育／中国女文字—』三元社
- 509)小川誉子美(2010)『欧州における戦前の日本語講座—実態と背景—』風間書房
- 510)学習院大学東洋文化研究所編(2010)『知識は東アジアの海を渡った—学習院大学コレクションの世界—』丸善プラネット株式会社
- 511)川口良・角田史幸(2010)『「国語」という呪縛』吉川弘文館
- 512)酒井順一郎(2010)『清国人日本留学生の言語文化接触—相互誤解の日中教育文化交流—』ひつじ書房
- 513)嶋津拓(2010)『言語政策として「日本語の普及」はどうあったか—国際文化交流の周縁—』ひつじ書房
- 514)上甲まち子・李俊植・辻弘範・樋口雄一(2010)『植民地・朝鮮の子どもたちと生きた教師 上甲米太郎』大月書店
- 515)台湾オーラルヒストリー研究会編集(2010)『台湾口述歴史研究 第2集』東京女子大学栗原研究室

- 516)東京外国語大学国際日本研究センター(2010)『東京外国語大学国際日本研究センター第1回国際シンポジウム報告集 世界の日本語・日本学—教育・研究の現状と課題—』東京外国語大学
- 517)長谷川恒雄・河路由佳・中村重穂・前田均・松永典子(2010)『第二次大戦期日本語教育振興会の活動に関する再評価についての基礎的研究 報告1～3』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(B)・課題番号18320085) 学校法人長沼スクール
- 518)平壤第三公立中学校総同窓会校史編纂委員会(2010)『平壤三中学窓の追憶史』明石書店
- 519)三ツ井崇(2010)『朝鮮植民地支配と言語』明石書店
- 520)渡辺哲男(2010)『「国語」教育の思想—声と文字の諸相—』勁草書房
- 521)有働玲子(2011)『話しことば教育の実践に関する研究—大正期から昭和30年代の実践を中心に—』風間書房
- 522)遠藤織枝編(2011)『日本語教育を学ぶ—その歴史から現場まで—【第二版】』三修社
- 523)太田哲男(2011)『清水安三と中国』花伝社
- 524)荻野富士夫(2011)『太平洋の架橋者 角田柳作』芙蓉書房出版
- 525)嘉数勝美(2011)『グローバリゼーションと日本語教育政策—アイデンティティとユニバーサリティの相克から公共性への収斂—』ココ出版
- 526)加藤九祚(2011)『天の蛇—ニコライ・ネフスキーの生涯—』河出書房新社
- 527)金沢朱美(2011)『ヘルンさん言葉の世界—小泉八雲の日本語と明治期の日本語教育をめぐって—』近代文藝社
- 528)嶋津拓(2011)『戦後期における「日本語の普及」事業の前段階の状況に関する研究—基礎編—』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号22520533) 長崎大学留学生センター
- 529)簡月真・真田信治(2011)『台湾に渡った日本語の現在—リングフランカとしての姿—』明治書院
- 530)鈴木洋子(2011)『日本に於ける外国人留学生と留学生教育』春風社
- 531)同志社大学日本語・日本文化教育センター(2011)『同志社大学留学生別科 開設10周年記念誌』同志社大学日本語・日本文化教育センター
- 532)ドナルド・キーン(2011)『戦場のエロイカ・シンフォニー—私が体験した日米戦—』藤原書店
- 533)ドナルド・キーン著、角地幸男訳(2011)『ドナルド・キーン自伝 増補新版』中央公論新社
- 534)永島広紀(2011)『戦時期朝鮮における「新体制」と京城帝国大学』ゆまに書房
- 535)中村健之介(2011)『宣教師ニコライとその時代』講談社
- 536)『日本語教育史論考第二輯』刊行委員会編(2011)『日本語教育史論考第二輯』冬至書房
- 537)松田吉郎(2011)『台湾原住民の社会的教化事業』晃洋書房
- 538)安田敏朗(2011)『「多言語社会」という幻想』三元社
- 539)安田敏朗(2011)『かれらの日本語—台湾「残留」日本語論—』人文書院
- 540)山下達也(2011)『植民地朝鮮の学校教員—初等教員集団と植民地支配—』九州大学出版会

- 541)早稲田大学大学院日本語教育研究科(2011)『早稲田大学大学院日本語教育研究科「10年のあゆみ」』早稲田大学大学院日本語教育研究科
- 542)朝日祥之(2012)『サハリンに残された日本語樺太方言』明治書院
- 543)石田敏子・鮎澤孝子監修・嶋津拓編集(2012)『1960年代海外派遣日本語教師の記録』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書別冊(研究種目:基盤研究(C)・課題番号22520533)大東文化大学国際交流センター
- 544)小川誉子美・河路由佳(2012)『日本語をめぐる国際交流史』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号21520531)
- 545)河路由佳(2012)『日本語教育と戦争―「国際文化事業」の理想と変容―』新曜社
- 546)三枝優子・高宮優実(2012)『かけ橋の石ずえー日本語教師のライフヒストリーー』文教大学出版事業部
- 547)酒井順一郎(2012)『改革開放の申し子たち―そこに日本式教育があった―』冬至書房
- 548)坂野徳隆(2012)『風刺漫画で読み解く日本統治下の台湾』平凡社
- 549)白石昌也(2012)『日本をめざしたベトナムの英雄と皇子―ファン・ボイ・チャウとクオン・デ』彩流社
- 550)新内康子(2012)『日本語教育文法用語の通時的かつ共時的研究―その出自から使用の実態8まで―』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目:基盤研究(C)・課題番号21520558)志學館大学
- 551)牲川波都季(2012)『戦後日本語教育学とナショナリズム―「思考様式言説」に見る包摂と差異化の論理―』くろしお出版
- 552)ダニエル・ロング、新井正人(2012)『マリアナ諸島に残存する日本語―その中間言語的特徴―』明治書院
- 553)紀旭峰(2012)『大正期台湾人の「日本留学」研究』龍溪書舎
- 554)陳培豊(2012)『日本統治と植民地漢文―台湾における漢文の境界と想像―』三元社
- 555)日本語教育学会(2012)『日本語教育』153号 日本語教育学会
- 556)韓哲昊他編(2012)『植民地朝鮮の日常を問う』思文閣出版
- 557)本田弘之(2012)『文革からの「改革開放」期における中国朝鮮族の日本語教育の研究』ひつじ書房
- 558)マフユディン・ガウス、後藤乾一編訳(2012)『研究資料シリーズ No.3 M. ガウス回想録―戦前期インドネシア留学生の日本体験―』早稲田大学アジア太平洋研究センター
- 559)柳田由紀子(2012)『二世兵士激戦の記録 日系アメリカ人の第二次大戦』新潮社
- 560)吉田亮編著(2012)『アメリカ日系二世と越境教育―1930年代を主にして―』不二出版
- 561)甲斐ますみ(2013)『台湾における国語としての日本語習得―台湾人の言語習得と言語保持、そしてその他の植民地との比較から―』ひつじ書房
- 562)加藤好崇・新内康子・平高史也・関正昭編著(2013)『日本語・日本語教育の研究―その今、その歴史―』スリーエーネットワーク
- 563)河先俊子(2013)『韓国における日本語教育必要論の史的展開』ひつじ書房
- 564)山東功(2013)『日本語の観察者たち』岩波書店
- 565)渋谷勝己、簡月真(2013)『旅するニホンゴ―異言語との出会いが変えたもの―』岩波書店

- 566)白柳弘幸(2013)『外地学校所在地一覧 上巻—台湾・朝鮮・樺太・南洋—』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目：基盤研究(B)・課題番号 23330244) 玉川大学教育博物館
- 567)白柳弘幸(2013)『外地学校所在地一覧 下巻—満州・青島—』日本学術振興会科学研究費補助金研究成果報告書(研究種目：基盤研究(B)・課題番号 23330244) 玉川大学教育博物館
- 568)『拓殖大学日本語教育の歩み』編集委員会編(2013)『拓殖大学日本語教育の歩み—拓殖大学日本語教育五十周年記念誌—』拓殖大学語学教育研究所
- 569)崔学松(2013)『中国における国民統合と外来言語文化—建国以降の朝鮮族社会—』創土社
- 570)寺澤行忠(2013)『アメリカに渡った日本文化』淡交社
- 571)樋浦郷子(2013)『神社・学校・植民地 逆機能する朝鮮支配』京都大学学術出版会
- 572)小川誉子美(2014)『ラムステッドと日本語学者たち—フィンランド側の資料をもとに—』北斗書房
- 573)川西玲子(2014)『戦前外地の高校野球—台湾・朝鮮・満州に花開いた球児たちの夢—』彩流社
- 574)北原道子(2014)『北方部隊の朝鮮人兵士—日本陸軍に動員された植民地の兵士たち—』現代企画室
- 575)木山三佳・中山仁・吉田雅子・多田恵(2014)『中国・台湾における日本語教育をめぐる研究と実践』東方書店
- 576)田澤耕(2014)『<辞書屋>列伝—言葉に憑かれた人びと—』中央公論新社
- 577)ドナルド・キーン、河路由佳(2014)『ドナルド・キーン わたしの日本語修行』白水社
- 578)鄒双双『「文化漢奸」と呼ばれた男—万葉集を訳した錢稻孫の生涯—』東方書店
- 579)奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター編(2014)『奈良女子高等師範学校とアジアの留学生』奈良女子大学アジアジェンダー文化センター
- 580)松田京子(2014)『帝国の思考—日本「帝国」と台湾原住民—』有志社
- 581)宮原彬(2014)『ベトナムの日本語教育—歴史と実践—』本の泉社
- 582)山本冴里(2014)『戦後の国家と日本語教育』くろしお出版
- 583)李潤沢(2014)『1931年以前の遼東半島における中国人教育の研究—日本支配下の教育事業の真相を問う—』日本僑報社
- 584)郭承敏(2014)『ある台湾人の数奇な運命』明文書房
- 585)青野正明(2015)『帝国神道の形成—植民地朝鮮と国家神道の論理—』岩波書店
- 586)朝日祥之・原山浩介(2015)『アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化』東京堂出版
- 587)荒井利子(2015)『日本を愛した植民地—南洋パラオの真実—』新潮社
- 588)井上亮(2015)『忘れられた島々—「南洋群島」の現代史—』平凡社
- 589)大谷渡(2015)『台湾の戦後日本』東方出版
- 590)小鹿原敏夫(2015)『ロドリゲス日本大文典の研究』和泉書院
- 591)カイト由利子監修、古川智樹編著(2015)『留学生教育の新潮流—関西大学留学生別科の実践と研究—』関西大学出版部
- 592)北島順子・吉岡数子(2015)『教科書が語る戦争』大阪公立大学共同出版会

- 593)熊谷明泰(2015)『朝鮮における戦時「国語常用」政策下の「毎日新報」－「国語」教材および「国語」欄記事の紹介と解題－』関西大学出版部、
- 594)桜井隆(2015)『戦時下のピジン中国語』三元社
- 595)関正昭・平高史也(2015)『日本語教育叢書「つくる」教科書を作る』スリーエーネットワーク
- 596)田中祐輔(2015)『現代中国の日本語教育史』国書刊行会
- 597)田中寛(2015)『戦時期における日本語・日本語教育論の諸相－日本言語文化政策論序説－』ひつじ書房
- 598)寺尾紗穂(2015)『南洋と私』リトルモア
- 599)東海大学別科日本語研修課程 50 年史編集委員会(2015)『東海大学別科日本語研修課程 50 年史』東海教育研究所
- 600)常盤智子(2015)『英学会話書の研究』武蔵野書院
- 601)馬場良二(2015)『João Rodriguez 『ARTE GRANDE』の成立と分析』風間書房
- 602)浜口裕子(2015)『満洲国留日学生の日中関係史－満洲事変・日中戦争から戦後民間外交へ－』勁草書房
- 603)檜山幸夫編(2015)『台湾植民地史の研究』ゆまに書房
- 604)平井美帆(2015)『中国残留孤児 70 年の孤独』集英社インターナショナル
- 605)藤井省三(2015)『魯迅と日本文学－漱石・鴉外から清張・春樹まで－』東京大学出版会
- 606)松田利彦(2015)『東亜聯盟運動と朝鮮・朝鮮人－日中戦争期における植民地帝国日本の断面－』有志舎
- 607)三浦英之(2015)『五色の虹 満州建国大学卒業生たちの戦後』集英社
- 608)李成市・劉傑編著(2015)『留学生の早稲田－近代日本の知の接触領域－』早稲田大学出版部
- 609)有田佳代子(2016)『日本語教育学の新潮流 15 日本語教師の「葛藤」－構造的拘束性と主体的調整のありよう－』ココ出版
- 610)温又柔(2016)『台湾生まれ 日本語育ち』白水社
- 611)AOTS 外史編集委員会編(2016)『AOTS 外史－民間ベース国際協力の原点 財団法人海外技術者研修協会(AOTS)－』スリーエーネットワーク
- 612)大澤広嗣(2016)『戦時下の日本仏教と南方諸地域』法蔵館
- 613)奥村恵介・吉田裕彦(2016)『天理（おやさと）に誕生した外国語学校の歴史－天理外国語学校・馬來語部創設から天理大学・インドネシア学科改編まで－』非売品
- 614)小黒浩司(2016)『図書館をめぐる日中の近代－有効と対立のはざままで－』青弓社
- 615)呉宏明(2016)『日本統治下台湾の教育認識－書房・公学校を中心に－』春風社
- 616)佐藤竜一(2016)『宮沢賢治の詩友・黄瀛の生涯－日本と中国 二つの祖国を生きて－』コールサク社
- 617)所澤潤・林初梅(2016)『台湾のなかの日本記憶－戦後の「再会」による新たなイメージの構築－』三元社
- 618)田中里奈(2016)『言語教育における言語・国籍・血統－在韓「在日コリアン」日本語教師のライフストーリー研究－』明石書店

- 619)譚璐美(2016)『帝都東京を中国革命で歩く』白水社
- 620)鄭鴻生著、天野健太郎訳(2016)『台湾少女、洋裁に出会う』紀伊國屋書店
- 621)鄭光著、廣剛・木村可奈子訳(2016)『李朝時代の外国語教育』臨川書店
- 622)根川幸男・井上章一編著(2016)『越境と連動の日系移民教育史—複数文化体験の視座—』
ミネルヴァ書房
- 623)根川幸男(2016)『ブラジル日系移民の教育史』みすず書房
- 624)西谷格(2016)『この手紙、とどけ！—106歳の日本人教師が88歳の台湾人生徒と再会するまで—』小学館
- 625)南誠(2016)『中国帰国者をめぐる包摂と排除の歴史社会学—境界文化の生成とそのポリテイクス—』明石書店
- 626)藤森智子(2016)『日本統治下台湾の「国語」普及有運動—国語講習所の成立とその影響—』
慶應義塾大学出版会
- 627)二見剛史(2016)『日中の道天命なり—松本亀次郎研究—』学文社
- 628)古川勝三(2016)『台湾を愛した日本人Ⅱ「KANO」野球部名監督 近藤兵太郎の生涯』ア
トラス出版
- 629)星名宏修(2016)『植民地を読む—「贗」日本人たちの肖像—』法政大学出版局
- 630)三尾裕子、遠藤央、植野弘子編著(2016)『帝国日本の記憶—台湾・南洋群島における外来
政権の重層化と脱植民地化—』慶應義塾大学出版会
- 631)宮地裕・甲斐睦朗監修(2016)『日本語学【4月特大号】人物でたどる日本語学史』第35
巻第4号 明治書19
- 632)山口昌子(2016)『パリの福澤諭吉—謎の肖像写真をたずねて—』中央公論新社
- 633)山口雅代(2016)『戦前・戦中のタイにおける日本語普及と諜報工作—チェンマイ日本語学
校とインパール作戦』大空社
- 634)山田寅次郎研究会編(2016)『山田寅次郎宗有一民間外交官・実業家・茶道家—』宮帯出版
社
- 635)吉岡英幸・本田弘之編(2016)『日本語教材研究の視点—新しい教材研究論の確立を目指し
て—』くろしお出版
- 636)羅福全著、陳柔縉編著、小金丸貴志訳(2016)『台湾と日本のはざまを生きて—世界人、羅
福全の回想—』藤原書店
- 637)伊藤孝行(2017)『近代日本語史に見る教育・人・ことばの交流—日本語を母語としない学
習者向け教科書を通して—』大空社出版
- 638)茅島篤(2017)『幻の日本語ローマ字化計画—ロバート・K・ホールと占領下の国字改革—』
くろしお出版
- 639)川上郁雄編(2017)『公共日本語教育学—社会をつくる日本語教育—』くろしお出版
- 640)楠家重敏(2017)『幕末の言語革命』晃洋書房
- 641)金珽実(2017)『満洲・間島における日本人—満洲事変以前の日本語教育と関連
して—』花書院
- 642)高瀬弘一郎(2017)『キリシタン時代のコレジオ』八木書店
- 643)鄭麗玲著・河本尚枝訳(2017)『躍動する青春—日本統治下台湾の学生生活—』創元社

- 644)寺尾沙穂(2017)『あのころのパラオをさがして—日本統治下の南洋を生きた人々—』集英社
- 645)西原大輔(2017)『日本人のシンガポール体験』人文書院
- 646)服部隆(2017)『明治期における日本語文法研究史』ひつじ書房
- 647)三澤真美恵(2017)『植民地台湾の映画—発見されたプロパガンダ・フィルムの研究—』東京大学出版会
- 648)レオ・チン著、菅野敦志訳(2017)『ビカミング<ジャパニーズ>—植民地台湾におけるアイデンティティ形成のポリティクス—』勁草書房
- 649)和田博文・徐静波・兪在真・横路啓子(2017)『<異郷>としての日本—東アジアの留学生がみた近代—』勉誠出版
- 650)小林一美(2018)『日中両国の学徒と兵士』集広舎
- 651)駒走昭二(2018)『ゴンザ資料の日本語学的研究』和泉書院
- 652)小山騰(2018)『戦争と図書館—英国近代日本語コレクションの歴史—』勉誠出版
- 653)史明著、田中淳構成(2018)『理想はいつだって煌めいて、敗北はどこか懐かしい—100歳の台湾人革命家・史明自伝』講談社
- 654)柴田幹夫編(2018)『台湾の日本仏教—布教・交流・近代化(アジア遊学)—』勉誠出版
- 655)新保敦子(2018)『日本占領下の中国ムスリム』早稲田大学出版部
- 656)孫曉英(2018)『「大平学校」と戦後日中教育文化交流—日本語教師のライフストーリーを手がかりに—』日本僑報社
- 657)武田珂代子(2018)『太平洋戦争日本語諜報戦—言語官の活躍と試練—』筑摩書房
- 658)ダニエル・ロング(2018)『小笠原諸島の混合言語の歴史と構造』ひつじ書房
- 659)中京大学社会科学研究所台湾史研究センター編(2018)『社研叢書 43 台湾総督府文書の史料論』中京大学社会科学研究所
- 660)中京大学社会科学研究所台湾史研究センター編(2018)『社研叢書 44 台湾総督府の統治政策』中京大学社会科学研究所
- 661)羽原清雅(2018)『津和野人 岸田蒔夫—その転変の生涯—』新時代社
- 662)ピーター・コーニツキー(2018)『海を渡った日本語書籍—ヨーロッパへ、そして幕末・明治のロンドンで—』平凡社
- 663)安田敏朗(2018)『近代日本言語史再考V—ことばのとらえ方をめぐって—』三元社
- 664)劉嘉雨(2018)『僕たちが零戦をつくった—台湾少年工の手記—』潮書房光人社
- 665)新井一二三(2019)『台湾物語—「麗しの島」の過去・現在・未来—』筑摩書房
- 666)今村圭介、ダニエル・ロング(2019)『パラオにおける日本語の諸相』ひつじ書房
- 667)温又柔(2019)『「国語」から旅立って』新曜社
- 668)国立国語研究所創立記念事業実施委員会編(2019)『国立国語研究所の歩み—創立70周年・人間文化研究機構移管10周年—』国立国語研究所創立記念事業実施委員会
- 669)小谷汪之(2019)『中島敦の朝鮮と南洋—二つの植民地体験—』岩波書店
- 670)今野真二(2019)『日本語が英語と出会うとき—日本語と英和・和英辞書の百五十年—』研究社
- 671)志學館大学(旧鹿児島女子大学)日本語教員養成30周年記念誌編集委員会(2019)『志學館大学(旧鹿児島女子大学)日本語教員養成30周年記念誌』志學館大学

- 672) 牲川波都季編著(2019)『日本語教育はどこへ向かうのか—移民時代の政策を動かすために—』くろしお出版
- 673) 高田幸男編著(2019)『戦前期アジア留学生と明治大学』東方書店
- 674) 竹中憲一(2019)『満州教育史論集』緑蔭書房
- 675) 譚璐美(2019)『戦争前夜—魯迅、蒋介石の愛した日本—』新潮社
- 676) 平畑奈美(2019)『移動する女性たち—海外の日本語教育と国際ボランティアの周辺—』春風社
- 677) 広瀬玲子(2019)『帝国に生きる少女たち—京城第一公立女学校生の植民地経験—』大月書店
- 678) 松本洽盛編著(2019)『むかし「日本人」　いま「台湾人」—最後の日本語世代が、日本人として生きた時代を、いま台湾人として振り返る—』明日香出版
- 679) 山本一生(2019)『青島と日本—日本人教育と中国人教育—』風響社
- 680) 大山真人(2020)『『陸軍分列行進曲』とふたつの『君が代』—出陣学徒は敵性音楽で戦場に送られた—』平凡社
- 681) 小川誉子美(2020)『蚕と戦争と日本語—欧米の日本理解はこうして始まった—』ひつじ書房
- 682) 国際交流基金(2020)『国際文化交流を实践する』白水社
- 683) 酒井順一郎(2020)『日本語を学ぶ中国八路軍—我が軍ハ日本下士兵ヲ殺害セズ—』ひつじ書房
- 684) 佐藤広美・岡部芳広編(2020)『日本の植民地教育を問う—植民地教科書には何が描かれていたのか—』皓星社
- 685) 薛静(2020)『近代日本語教科書における謙讓表現』郵研社
- 686) 園田博文(2020)『日清戦争以前の日本語・中国語会話集』武蔵野書院
- 687) 代珂(2020)『満洲国のラジオ放送』論創社
- 688) 田巻松雄(2020)『宇都宮大学 HANDS10 年史—外国人児童生徒教育支援の实践—』宇都宮大学国際学部田巻研究室
- 689) 手島仁(2020)『石坂荘作と顔欽賢—台湾人も日本人も平等に—』上毛新聞社
- 690) 宮地裕、甲斐睦朗監修(2020)『日本語学　特集：日本語学を創った人々』第 39 卷 1 号(2020 年春号) 明治書院
- 691) 山田直之(2020)『芦田恵之助の教育思想　とらわれからの解放をめざして』春風社
- 692) 伊藤孝行(2021)『近代日本語教科書語彙索引』勉誠出版
- 693) 稲森雅子(2021)『開戦前夜の日中学术交流—民国北京の大学人と日本人留学生—』九州大学出版会
- 694) 今村圭介、ダニエル・ロング編(2021)『アジア・太平洋における日本語の過去と現在』ひつじ書房
- 695) 笠井亮平(2021)『インパールの戦い—ほんとうに「愚戦」だったのか—』文藝春秋社
- 696) 宍戸清孝(2021)『Jap(ジャップ)と呼ばれて』論創社
- 697) 鈴木貞美(2021)『満洲国—交錯するナショナリズム—』平凡社
- 698) 園田博文(2021)『台湾の日本語教科書と中国語会話書の研究—昭和 20 年まで—』武蔵野書院

- 699)建石一郎(2021)『「満洲」夢のあとさき—日本語教師の記録—』論創社
- 700)田中寛(2021)『語学教育フォーラム第36号 戦時期における日本語の進出と言語文化建設—南方諸地域を中心に—』大東文化大学語学教育研究所
- 701)玉木淳一(2021)『郵便が語る台湾の日本時代50年史』日本郵趣出版
- 702)祝利(2021)『「満洲国」教育再考—日本語教育を手がかりに—』花書院
- 703)鄭鍾賢著、渡辺直紀訳(2021)『帝国大学の朝鮮人—大韓民国エリートの起源—』慶應義塾大学出版会
- 704)仁田義雄(2021)『国語問題と日本語文法研究史』ひつじ書房
- 705)胡穎(2021)『清末の中国人日本留学—派遣と経費を中心に—』学術研究出版
- 706)二見剛史(2021)『中国人留学生の父 松本亀次郎研究—その学問観と教育実践を中心として—』学文社
- 707)町泉寿郎(2021)『レオン・ド・ロニーと19世紀欧州東洋学—旧蔵漢籍の目録と研究—』汲古書院
- 708)松田ヒロ子(2021)『沖縄の植民地的近代』世界思想社
- 709)林初海・所澤潤・石井清輝編著(2021)『二つの時代を生きた台湾—言語・文化の相克と日本の残照—』三元社
- 710)早稲田大学日本語学会編(2021)『早稲田大学日本語学会設立60周年記念論文集第1冊 言葉のしくみ』ひつじ書房
- 711)早稲田大学日本語学会編(2021)『早稲田大学日本語学会設立60周年記念論文集第2冊 言葉のはたらき』ひつじ書房
- 712)荒川友幸・長岡康雅・西村祐二郎編(2022)『パプアニューギニアの日本語教育—40年の軌跡とその意義—』デザインエッグ
- 713)井川充雄(2022)『帝国をつなぐ<声>—日本植民地時代の台湾ラジオ—』ミネルヴァ書房
- 714)上田崇仁(2022)『電波が運んだ日本語』風響社
- 715)上野幹久(2022)『日本統治時代 ある校長の樺太・台湾旅日記—祖父の記録から読み解く—』梓書院
- 716)鶴飼秀徳(2022)『仏教の大東亜戦争』文藝春秋
- 717)宇賀神一(2022)『石森延男研究序説』風間書房
- 718)大日方純夫(2022)『唱歌「蛍の光」と帝国日本』吉川弘文館
- 719)岸本恵美・白井純編(2022)『キリシタン語学入門』八木書店出版部
- 720)北川知子(2022)『日本統治時代・朝鮮の「国語」教科書が教えてくれること』
- 721)佐野明子・堀ひかり編著(2022)『戦争と日本アニメ—『桃太郎 海の神兵』とは何だったのか—』青弓社
- 722)白柳弘幸(2022)『戦時下台湾の少年少女』風響社
- 723)大学日本語教員養成課程研究協議会編(2022)『社会を築くことばの教育—日本語教員養成のこれまでの30年、これからの30年』ココ出版
- 724)『拓殖大学別科日本語教育課程五十周年記念誌』編集委員会編(2022)『拓殖大学別科日本語教育課程五十周年記念誌』拓殖大学
- 725)胡清正(2022)『八十二歳台湾人の語らい』朝日カルチャーセンター

- 726)松井一美、設樂馨、鈴木美穂編著(2022)『日本語教育ができること、そしてことばについて—金田一秀穂先生と学んで:教授退職記念論文集—』凡人社
- 727)矢吹晋監修・鈴木博訳(2022)『周恩来十九歳の東京日記 改訂新版』DECO
- 728)和田敦彦(2022)『「大東亜」の読書編成—思想戦と日本語書物の流通—』ひつじ書房
- 729)魏晨(2023)『「満洲」をめぐる児童文学と綴方活動—文化に潜む多元性、辺境性、連続性—』ミネルヴァ書房
- 730)岡部一興(2023)『へボン伝—和英辞典・聖書翻訳・西洋医学の父—』有隣堂
- 731)小川誉子美(2023)『開国前夜、日欧をつないだのは漢字だった—東西交流と日本語との出会い—』ひつじ書房
- 732)長田俊樹(2023)『上田万年再考—日本言語学史の黎明—』ひつじ書房
- 733)河路由佳(2023)『日本語はしたたかで奥が深い—くせ者の言語と出会った<外国人>の系譜—』研究社
- 734)郭南燕編著(2023)『宣教師の日本語文学—研究と目録—』勉誠出版
- 735)倉田洋二、上杉誠、諸川由実代、笹倉江身子、安斎晃(2023)『パラオ歴史探訪—倉田洋二と歩く南洋群島—』星和書店
- 736)小林和夫(2023)『「伝統」が制度化されるとき—日本占領期ジャワにおける隣組—』春風社
- 737)嶋津拓(2023)『戦前戦中期の国際文化事業と、その戦後期への影響—国際文化交流、日本語教育、留学生教育—』現代図書
- 738)下村作次郎(2023)『台湾原住民文学への扉 「サヨンの鐘」から原住民作家の誕生へ』田畑書店
- 739)田中寛(2023)『青春の絆、永遠の橋 タイからの私の歩み』亜細亜総合企画工房
- 740)垂水千恵(2023)『台湾文学というポリフォニー—往還する日台の想像力—』岩波書店
- 741)津田浩司(2023)『日本軍政下ジャワの華僑社会—『共栄報』にみる統制と動員—』風響社
- 742)寺尾紗穂(2023)『日本人が移民だったころ』河出書房新社
- 743)平田諭治(2023)『岡倉由三郎と近代日本—英語と向き合う知の軌跡—』風間書房
- 744)相良啓子(2024)『日本手話の歴史的研究—系統関係にある台湾手話、韓国手話の数詞、親族表現との比較から—』ひつじ書房
- 745)古賀万紀子(2024)『「ビジネス日本語教育」から「キャリア日本語教育」へ—「自分なりの日本語」の構成をめざす対話活動の実践—』ココ出版
- 746)佐藤郡衛、菅原雅枝、小林聡子(2024)『子どもの日本語教育を問い直す—外国につながる子どもたちの学びを支えるために—』明石書店
- 747)陳虹彬(2024)『日本統治下台湾における公学校児童の修学状況に関する研究—学校文書の調査を中心に—』2020~2023年度科学研究費補助金(基盤研究(C)一般・課題番号20K02550)研究成果報告書 平安女学院大学
- 748)府川源一郎(2024)『国語教科書の近代史—小学校入門教材の変遷を読む—』大修館書店
- 749)藤原正彦(2024)『藤原正彦の代表的日本人』文藝春秋社
- 750)三代純平・佐藤正則(2024)『日本語学校物語—開拓者たちのライフストーリー—』ココ出版
- 751)王鼎(2024)『湖北省留日学生と日本』勉誠社

- 752)飯田未希(2025)『女たちよ、大志を抱け—戦時下、外地で就職する—』中央公論新社
- 753)市川章子(2025)『東アジアから日本へ越境する人々の「言語」と経験—1980年代後半以降を中心に—』ひつじ書房
- 754)大内泰夫(2025)『伝道参考シリーズ 43 日本語教育と海外伝道』天理大学おやさと研究所
- 755)桑原哲朗(2025)『芦田恵之助の教育者の堪能 読み方教授編』新潟日報メディアネット
- 756)佐々木良(2025)『ツカレナオース!』万葉社
- 757)中生勝美(2025)『アメリカの日本研究—その戦略と学知の遺産—』論創社
- 758)平井教馬顕彰会(2025)『「六氏先生」最年少 平井教馬伝』平井教馬顕彰会
- 759)村上瑛一(2025)『日本語教室の窓から世界がみえる—吉野川市国際交流協会日本語教室の現場から—』22世紀アート
- 760)米倉歩(2025)『歌集 日本語中級1クラス』角川文化振興財団
- 761)田尻英三編(2025)『外国人受け入れへの日本語教育の新しい取り組み』ひつじ書房
- 762)松永典子、郭俊海、柳瀬千恵美(2025)『日本社会と継承語教育』九州大学出版会
- 763)安田敏朗(2025)『ローマ字運動がかがやっていた時代 弁護士・森馥の言語運動』三元社